

設計者・施工者：株式会社竹中工務店 西崎隆氏、村上陸太、熊野豪人
 芹澤好徳、石原 哲



建物外観1 (撮影：竹中工務店)

建築概要

建設地：兵庫県神戸市西区
 建築主：シスメック株式会社
 設計：株式会社竹中工務店
 施工：株式会社竹中工務店
 竣工：2008年5月
 建築面積：2,727㎡ 延床面積：24,401㎡
 階数：地上10階、地下1階 高さ：50.49m
 構造種別：S造およびRC造（一部SRC造）

選評

研究開発施設に求められる種々なニーズに対し免震構造採用を基本とした構造システム構築によって応え、新しい時代の研究環境創出に成功している。

本建物の白眉はコラボアトリウムと称するスペースである。何層にも渡って斜めに視線が抜けるボイドは研究員相互のコミュニケーションを誘発する気持ちのよい空間となっており「知の創造と継承」というこの研究施設全体のコンセプトがよく具現化されている。

構造計画としては、免震構造の効果を最大限発揮させるべく、東西の両サイドコアに集約されたRC耐震壁とその耐震壁を屋上頂部でつないだメガフレームにより上部構造の剛性を高めている。南北面は6.4m、4.8mの跳ね出し架構として透明性のあるファサードデザインを可能としている。又、中央部分は大スパン純ラーメン鉄骨造とし、研究開発エリアのフレキシビリティを確保している。

免震技術の進歩、普及により、免震構造はもはや特殊解ではなくなりつつあるが、免震構造それ自体は手段であり、それを採用した結果の建築が設備も含めてしなやかにインテグレート出来ていることが重要である。本建物はそれが高いレベルで達成出来ており、免震構造協会賞にふさわしい作品である。

(江本正和)

免震化した経緯及び企画設計等

シスメックステクノパーク計画は、医療用検査機器や試薬の製造・販売で事業拡大中のシスメック株式会社が、「知の創造と継承」をコンセプトに、グローバル企業にふさわしい研究環境の構築をめざしたプロジェクトである。

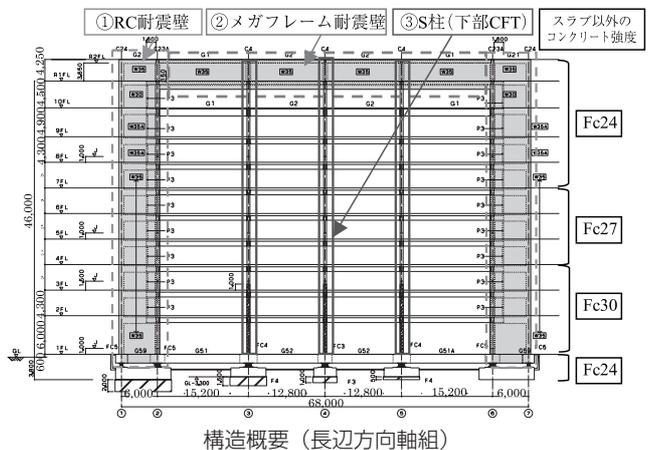
中でもこのR&Dタワーは、その中枢をなす研究施設であり、免震構造を採用することで、下記要求を実現することができた。

- ・建物・研究者の人命・研究成果を守るための高い耐震性能
- ・平面レイアウトのフレキシビリティ
- ・上下階のコミュニケーションを誘発する魅せる空間の構築

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

建物は39.2m×68.0mの方形な平面形状を有する。その両サイドのコア部をRC耐震壁で構成し、さらに塔屋階で両コアを耐震壁により繋ぐことで、上部架構に高剛性・高耐力を確保した。その結果、レベル2地震時加速度は最上階でも140galとなり、免震効果を最大限発揮している。

また、耐震要素を両サイドのRC耐震壁コアに集約させ、建物中央部を鉄骨造とすることで、フレキシビリティの高い大スパン架構と、吹抜と組み合わせられた透明感のある跳ね出し空間（コラボスペース）を構築することができた。



コラボスペース
 (撮影：竹中工務店)



建物外観2
 (撮影：村井修)